

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立蒲田本町保育園		
事業所連絡先	〒	144-0053	
	所在地	東京都大田区蒲田本町1-1-1 101	
	TEL	03-3739-2281	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	22日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	22日
訪問調査日	2025年	8月	26日
評価合議日	2025年	9月	9日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。</p>		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>職員一人ひとりが【わが子を委ねたいと思える保育園】を創る。 （理念）わが子をゆだねたい保育 ・温かい心（ホスピタリティーマインド）をもって受け止め、こどもを愛している。 ・こどもの個性、独自性を大切にしている。 ・保護者、地域社会と共に歩みる。 ・家庭的な雰囲気大切に保育園を目指している。ホスピタリティマインド（優しい心）をもって受け止め、こどもを愛している。3. MIWAほいくを通して、人々の心の幸せを実現する。 （使命） 保育園からひろがるあたたかい社会を実現する ～愛、出会い、育ち合いの「和」「輪」「環」～ （ビジョン） ・わが子を委ねたいと思える保育園であること ・MIWAほいくを通して、人々の心の幸せを実現する （バリュー） ～MIWAほいく、職員心得の実践～ M マインド（ホスピタリティマインド・マインド） I アイデンティティ（互いの個性を大切に） W ウィズ（共に育ち合う） A アットホーム（集う人がほっとする家庭的であたたかな場所）</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 理念に共感し歩んでいける人 <ul style="list-style-type: none"> 共にみわの会の保育理念の達成を目指そうとする人 みわの会が好き、ここで働きたいという気持ちを持つ人 心の豊かさを深め、いきいきと笑顔で毎日を送りたい人 こどもを大切に、人を大切に、自分を大切にできる人 <ul style="list-style-type: none"> 相手を受け止める素直さ、やさしさ、あたたかさを心がける人 失敗をチャンスに変えようとする前向きな人 こどもの傍らに居ることを喜ぶ人 成長のためにチャレンジする人 <ul style="list-style-type: none"> 共に学び続ける姿勢のある人 専門職としての誇りをもって物事に取り組む人 自らを向上させ、自信を持って生きようとする意欲のある人 遊び心を持っている人 <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を大切に深掘りしようとする探究心がある人 いつでもこども達と共に楽しもうという気持ちを持っている人 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>・職員一人ひとりが「わが子を委ねたい保育者（保育園）」を目指し、こども理解を深める学びと専門性向上のためにMIWAほいくの内容理解を深めて、実践につなげていく。また職員心得を理解・浸透することにより、個人の人間力の向上を図っていく。職員自身が人として自分に自信を持ち、みわの会が自分の居場所であること、みわの会の職員であることに誇りがもてるようになってほしい。</p>

調査対象	保育園に通っている園児102世帯119人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	119		
利用者家族総数(世帯)	102		
共通評価項目による調査対象者数	102		
共通評価項目による調査の有効回答者数	75		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	73.5		

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」40.0%、「満足」46.7%の計86.7%であった。自由意見では、「広々とした園庭で体を動かせたり、虫と触れ合えたりと家ではできない体験もさせてもらえて感謝しております。」「いつも保育士の方たちがあたたかく迎えてくださり、受け渡し口でいつも楽しそうに笑顔で安心しています。ありがとうございます。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「整理整頓」「接遇」「病氣やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」などの17問中11問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	73	1	1	0
「はい」の回答は97.3%、「どちらともいえない」の回答は1.3%、「いいえ」の回答は1.3%であった。 自由意見では、「栄養たっぷりの給食を食べている」「泥遊びなど家庭ではできない経験をしている」という声が寄せられている一方、「以前のような夏祭りや移動動物園などがまたあるとさらに良い」という意見が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	72	1	1	1
「はい」の回答は96.0%、「どちらともいえない」の回答は1.3%、「いいえ」の回答は1.3%、「無回答・非該当」の回答は1.3%であった。 自由意見では、「表現遊びなど工夫がたくさんある」「今年度からかまたフェスティバルとして五感を刺激するよう多様なイベントを企画して下さりととても楽しそうです」という声が寄せられている一方、「はねびよんに保護者も会いたかったです」という意見が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	69	4	2	0
「はい」の回答は92.0%、「どちらともいえない」の回答は5.3%、「いいえ」の回答は2.7%であった。 自由意見では、「毎日給食の写真を保育アプリに載せてくださり、保護者に共有されています」「子どもは保育園の給食とおやつが大好きです」という声が寄せられている一方、「給食は試食をしたことがないので味の濃さ、かたさ、食べた総量がわかりません」という意見が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	63	11	1	0
「はい」の回答は84.0%、「どちらともいえない」の回答は14.7%、「いいえ」の回答は1.3%であった。 自由意見では、「家でなかなか体験できないことをしていただけてありがたいです」「園庭で虫探し泥だらけになって自然が好きになっていると感じている」という声が寄せられている一方、「コロナ禍から戸外遊びや自然との触れ合い、社会との関わりは減っているようです」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	55	15	3	2
「はい」の回答は73.3%、「どちらともいえない」の回答は20.0%、「いいえ」の回答は4.0%、「無回答・非該当」の回答は2.7%であった。 自由意見では、「可能な限り対応してくださってます」「いつも柔軟に対応してくれてとても助かっています」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	61	6	6	2
「はい」の回答は81.3%、「どちらともいえない」の回答は8.0%、「いいえ」の回答は8.0%、「無回答・非該当」の回答は2.7%であった。 自由意見では、「保育参観で他の場所に避難する仕方をみましたが、先生たちの頑張りや必死さは伝わりました」「避難訓練は比較的多い気がします」という声が寄せられている一方、「やはり古い園舎なので不安はあります」という意見が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	52	14	7	2
「はい」の回答は69.3%、「どちらともいえない」の回答は18.7%、「いいえ」の回答は9.3%、「無回答・非該当」の回答は2.7%であった。 自由意見では、「お忙しいなか、仕事の都合にあわせて柔軟に日程を変更していただいていると感じます」という声が寄せられている一方、「昨年卒園式が平日になったのは働く保護者にとっては厳しいように思います」という意見が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	57	11	7	0
「はい」の回答は76.0%、「どちらともいえない」の回答は14.7%、「いいえ」の回答は9.3%であった。 自由意見では、「子ども同士のトラブルがあった際、親身に聞いてくださりサポートをしながら見守り、子ども自身で解決することができました」「トイレトレーニングがとても大変だったのですが、先生がいつも相談に乗ってくれてとても助かった」という声が寄せられている一方、「事務的な先生もいるので人によります」という意見が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	66	6	3	0
「はい」の回答は88.0%、「どちらともいえない」の回答は8.0%、「いいえ」の回答は4.0%であった。 自由意見では、「水回りなどいつも清潔になっている」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	62	10	3	0
「はい」の回答は82.7%、「どちらともいえない」の回答は13.3%、「いいえ」の回答は4.0%であった。 自由意見では、「本当に子ども目線に立ってご対応くださいます」「大半の方が優しいと思う」という声が寄せられている一方、「自分や子どもの体調不良の際、寄り添ってもらえなかった」という意見が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	8	2	1
「はい」の回答は85.3%、「どちらともいえない」の回答は10.7%、「いいえ」の回答は2.7%、「無回答・非該当」の回答は1.3%であった。自由意見では、「看護師の先生がよく見てくださるので安心です」「適切に対応をしてもらったことがあるため」という声が寄せられている一方、「いつ怪我をしたのかわからないような傷がある時がある」という意見が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	46	21	4	4
「はい」の回答は61.3%、「どちらともいえない」の回答は28.0%、「いいえ」の回答は5.3%、「無回答・非該当」の回答は5.3%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	61	10	2	2
「はい」の回答は81.3%、「どちらともいえない」の回答は13.3%、「いいえ」の回答は2.7%、「無回答・非該当」の回答は2.7%であった。自由意見では、「保育現場を見ていないのでわかりませんが、きっと大切にしていると思います」「子どものペースに合わせてくれる。優しい声がけで教えてくれている」という声が寄せられている一方、「先生による気がします」という意見が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	61	9	3	2
「はい」の回答は81.3%、「どちらともいえない」の回答は12.0%、「いいえ」の回答は4.0%、「無回答・非該当」の回答は2.7%であった。自由意見では、「わかりませんが、配慮していただけていると思っています」という声が寄せられていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	64	3	7	1
「はい」の回答は85.3%、「どちらともいえない」の回答は4.0%、「いいえ」の回答は9.3%、「無回答・非該当」の回答は1.3%であった。自由意見では、「子どもがなかなか保育園に馴染めず、心配だったときに動画や写真をたくさんとって、日常の姿を教えてください、安心できました」「保育アプリの説明で子どもの姿がわかり安心していきます」という声が寄せられている一方、「できればその日の活動での子どもの姿も教えてほしい」という意見が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	59	9	7	0
「はい」の回答は78.7%、「どちらともいえない」の回答は12.0%、「いいえ」の回答は9.3%であった。自由意見では、「すぐに対応はしてくれます」という声が寄せられている一方、「とてもよく寄り添って見聞きしてくれる先生がいる反面、そうでない先生もいます」という意見が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	48	16	10	1
「はい」の回答は64.0%、「どちらともいえない」の回答は21.3%、「いいえ」の回答は13.3%、「無回答・非該当」の回答は1.3%であった。自由意見では、「療育についての相談にも丁寧に対応いただきました」という声が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	組織の理念が職員の行動と利用者の理解につながる、優れた取組がなされている 職員に対しては、理念や人物像、職員心得などを明記した業務マニュアルを各職員に配布している。特に毎月グループで「職員心得」について話し合う機会を設けており、理念が形骸化することを防ぎ、職員一人一人が自らの言葉で理念を捉え直し、行動基準として内面化されている。職員間の共通認識が醸成され、重要な判断場面における拠り所として機能している。利用者である保護者に対しても、理念や方針の理解促進に努められている。入園前の重要事項説明書での丁寧な説明に加え、ICTツールを活用していつでも内容を確認できるように配慮されている 法人の理念を職員・保護者と共有し、対話的なリーダーシップで組織を牽引している 園では「子どもが健やかに成長し、保護者と喜び合える関係性を築く」「職員がいいきと働ける環境をつくる」という理念を実現するために、経営層が自らの役割と責任を言語化し、職員へ分かりやすく伝達している。法人の事業計画を起点に園の事業計画を策定し、職員全員に配布・説明するだけでなく、保護者が閲覧できるよう絵本コーナーにも設置するなど、透明性を確保する工夫がみられる。経営層はリーダー会議や各クラス会議に参加し、助言・指導を行うことで現場に即した支援を実施しており、日常的な対話を通じたリーダーシップが発揮されている 手順の明確化と情報共有の徹底により、職員・保護者ともに安心して関わっている 当園では、クラス会議から乳幼児別会議、四者会議、リーダー会議、さらには法人レベルの審議体へと段階的に議論を深める意思決定フローが明確に定められている。人権・安全に関わる事項は園長・担当者が迅速に発信し、保育実務に関わる事項は現場発のボトムアップ型で合意形成を行うという切り分けも機能している。また、決定内容と経緯を職員・非常勤スタッフへ昼礼簿や議事録で速やかに共有し、保護者へは園だよりやアプリでタイムリーに発信するなど、透明性の高い運営が実践されている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>事業所が地域の特性や利用者の状況を把握し運営に活かしている</p> <p>事業所においては地域の人口動態や子育てニーズを把握するために、自治体からの資料や統計情報を収集し、職員会議で共有している。保護者アンケートや懇談会を通じて利用者の意向を把握する取組も行われており、その情報をもとに園の行事や保育内容に反映している。また、近隣の子育て関連機関との連携を図り、地域の特性を踏まえた保育の実践に努めている。一方で、得られた情報を計画的に整理・分析し、次年度の事業計画に反映させる仕組みは十分ではない。地域や利用者の状況を継続的に把握・分析し、計画へ明確に位置付けることが期待される。</p> <p>事業所が地域資源を活用し保育や子育て支援に生かしている状況について</p> <p>園は地域の公共施設や子育て支援機関との連携を進め、子どもが地域社会に親しむ機会を設けている。また、地域行事への参加や外部講師の招へいなどを通じて、子どもが多様な体験を得られるよう配慮している。これらの取組により、子どもが地域の人々との関わりを深め、保育の幅が広がっている点は評価できる。今後は、地域資源の一覧化や活用計画の策定を進めることで、より計画的で多様な体験の機会を提供できることが期待される。</p> <p>事業所が計画に基づき職員と協働しながら実行している</p> <p>事業所は、年度当初に策定した事業計画を職員に周知し、各自が役割を理解した上で保育や行事を進めている。職員会議や分科会を通じて進捗状況を確認し、必要に応じて修正を行いながら計画を実行している。また、職員が意見を出し合い協力して取組を進める姿勢が見られており、組織としての一体感が醸成されている。</p>		

3			カテゴリ-3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。			○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している			○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる			○非該当

カテゴリー3の講評

全職員が規範・倫理を学び続け、実践する組織文化の定着に向けて取り組んでいる

当園では、年1回の全体会議での業務マニュアル再確認、新入職員への4月マナー研修、既存職員も3年に一度受講とする研修体制、気になる事象が生じた際の随時フィードバック、「心を育てる大田の保育」自己評価チェックリストを活用した相互学習、など複層的な仕組みを整え、法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)の理解促進と遵守を図っている。特に、自己評価チェックリストを用いて日常的に「気づき」を共有し合う文化は、具体的な行動指針となり、職員間で再確認でき、福祉サービスの倫理的基盤を強化している。

地域の子育てニーズの可視化を起点に、専門性を還元しながら多機関連携を推進している

園は離乳食試食会や保育体験の受け入れ、園行事への招待、小規模園との園庭共有・消防体験など、園の専門性と設備を活かした地域貢献を実施している。地域ニーズに即した良質な実践として、近隣保護者から寄せられる「離乳食の不安」「園庭不足」といった具体的な声を的確に把握し、サービス内容に落とし込んでいる。これらはホームページやInstagram、掲示板で周知されている。また、区立園長会・民営園長会・地域園長会に継続参画し、保育情報・課題を共有しているほか、自治会や地域庁舎とも連携してポスター配布やイベント協働を行っている

苦情解決の透明性や虐待防止を組織文化として定着させ、子どもの権利を守っている

園では、入園説明会での口頭説明に加え、重要事項説明書・園内ファイル・保護者アプリ「コドモン」資料室への掲載など、複数チャネルを用いて苦情解決制度及び、第三者委員(市民オンブズマン)を周知している。また、主任を苦情受付担当、園長を解決責任者とする明確な組織体制を整えている。ご意見箱の設置により、対面以外での意見収集窓口も確保されている。園は、児童の権利擁護を最優先とする姿勢を明確に打ち出し、さらに、主任を窓口にした通報体制を設置し、区の子育て家庭支援センター・児童相談所との情報共有を行っている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>事業継続計画を核に、優先順位を明確化した対策と日常訓練を連動させている</p> <p>園では、BCP(事業継続計画)と安全計画を基盤に、事故・感染症・侵入・災害等の多様なリスクを体系的に洗い出し、優先順位を設定したうえで対策を講じている。BCPは、職員のみならず保護者・関係機関へもコードモンやファイル配架で公開されている。正規・非常勤を問わず消火訓練や園舎内防災ツアーに参加させる体制、帰宅困難時を想定した鍵開錠シミュレーションなど、役割分担の明確化と即応性を兼ね備えた訓練計画を策定している。事故・感染症発生時は、報告書による要因分析と保健所助言を活用した再発防止策の見直しを行っている。</p> <p>実効性の高いリスクマネジメントを構築している</p> <p>リスクの優先順位は「保護者トラブル(伝達ミス)」を最上位リスクに位置づけ、園内研修の強化や情報伝達プロトコルの徹底を図っている。リスク評価結果を全職員と共有し、ヒヤリハット報告→対策→再周知のサイクルが回っている。優先度上位のリスクに対しては、SIDS対策として照明管理やビブス着用、タイマー確認、見守り担当者のビブス着用による責任範囲の明確化、園内研修による知識と行動の標準化など具体的な手段が設定され、ヒヤリハット報告書・事故報告書との紐づけにより改善の実効性を高めている。</p> <p>規程整備とICTを両輪に、個人情報保護と業務効率を両立させる管理体制を組んでいる</p> <p>園では情報の収集・利用・保管・廃棄に関する規程を業務マニュアルと個人情報取扱規定に明文化し、年1回の全体研修で確認するとともに、実習生やボランティアにも同意書をもって周知するなど、対象者を漏れなくカバーする教育体制を構築している。機密性の確保は事務所内限定での書類記入・端末利用、持ち出し管理表、端末パスワード設定など多層防御が図られている。個人情報は毎年更新する同意書により利用目的を明示し、開示請求時の手順もマニュアル化されている。マイナンバーについても、施錠管理のうえ区へ直接提出するフローを定めている。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

長期的な展望(キャリアパス)と連動した人材育成が効果的に運用されている

法人理念の実現に適した人材を育成するために、「職種別成長ステージ」として、職員個々の段階で求められる役割やスキルが明示されている。さらに、このキャリアパスは具体的な人材育成計画と連動しており、「職員心得」に基づいた自己評価が人事考課や昇給に反映され、職員の自律的な成長に加えて、リーダー層が個々の職員の成長段階を考慮して作成する「3つの期待」は、計画に留まらない、個別性の高い人材育成を実践している。理念に基づいたキャリアパスの提示から、人事考課、個別指導までが一貫した育成システムとして機能している。

多様な研修と個別育成計画を両輪に、全職員の体系的な成長を組織的に支援している

新入職員に対しては「ブラザー・シスター制度」によるOJTが導入されており、先輩職員のきめ細やかなサポートのもと、実践的なスキルを安心して習得できる仕組みが整っている。また、育成の機会は正規職員に限定されず、非常勤職員にも面談による目標確認や心肺蘇生、アレルギーといった安全に関わる重要な研修への参加を促している。職員に対しては面談を通じて本人の意向を確認しながら育成計画を立てている。さらに、指導する側の職員に対しても、法人主催のリーダーシップ研修やリーダー会議を通じて指導のノウハウを学ぶ機会が設けられている。

個人の学びと日々の気づきを組織の力に転換し、チームで向上させる文化が根付いている

園では職員一人一人の学びや日々の気づきを組織全体で共有し、チームとしてサービスの質の向上へと繋げている。研修に参加した職員が、職員会議の場でその内容を発表し共有することで、個人の学びを組織全体の知識へと高めている。さらに、職員会議や日々の振り返りなどを通じて、職員が日頃感じている「気づき」や「工夫」を積極的に出し合い、業務改善に活かす文化が醸成されている。実際に、職員の「園までの経路を分かりやすく伝えたい」という発想から、Instagramで写真付きの道案内を掲載するといった具体的な改善が生まれている。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度は安全計画を最重点課題と位置づけ、子どもたちの安全意識の向上を目標に掲げている。安全計画の策定と同時に園内の危険要因を洗い出し、職員の意識改革を推進した結果、目標のおよそ80%を達成している。ただし、安全対策に「これで満足」はなく、常にスキルを磨きながら新たな課題を見いだす必要がある。現時点では、不審者対応訓練の強化が喫緊の課題として浮き彫りになっている。これらの検証結果を踏まえ、本年度も安全への取り組みを継続・拡充している。怪我予防、SIDSチェック、不審者対応訓練などを中心に、職員のスキルアップと安全文化の定着を図っている。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 昨年度における安全計画の取り組み状況とその成果、さらには今後の課題と計画について、特に、子どもたちの安全意識の向上を目標に据え、園内の危険要因の洗い出しや職員の意識改革に注力した点が強調され、安全計画の策定と並行して、職員のスキルアップや意識改革といった内面的な成長にも力を入れたことが示され、計画全体の一貫性と実効性が評価できる。特に目標達成率が約80%に達したという具体的な成果が提示されることにより、取り組みの効果が客観的に伝わる点は評価できる。しかしながら、現状に満足せず、常に改善を追求する姿勢が感じられる。不審者対応訓練の強化が喫緊の課題として浮上していることから、安全対策においては今なお改善の余地があるという認識が示され、今後のリスクマネジメントに対する危機意識が感じられる。全体として、安全計画の実践状況と成果、そして課題をバランスよく評価されており、今後の取り組みへの意欲を感じさせる。引き続き、怪我予防、SIDSチェック、不審者対応訓練といった具体的な施策を通じて、安全文化のさらなる定着と職員のスキルアップが図られることが期待される。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は、子ども主体の保育を重点課題と位置付け、生活時間の見直しを重点目標に掲げている。具体的な施策として、「食べたいときに食べ、眠たくなったら眠る」といった、個人のリズムを尊重する取組を行っている。その結果、掲げた重点目標は100%達成することができている。達成の要因としては、0～2歳児に対して生活の流れを見直すことで、それぞれに合ったリズムを作り出せたことや、そのための話し合いや環境構成が効果的に機能したことが挙げられる。
こうした取組を検証し、今年度に向けて、異年齢保育が子どもたちの自然な関わりの時間であると認識が深まり、自然な交流が増えることで子どもたちの成長に繋がるとともに、職員同士の交流も促進している。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度、子ども主体の保育を重点課題に据え、生活時間の見直しを主要目標とした取組は、「食べたいときに食べ、眠たくなったら眠る」個人リズムを尊重している。職員の意識改革と環境整備を通じて、子ども一人一人の心身の安定を図る明確な方針が行われている。具体的には、0～2歳児の生活の流れを保育者間で再検討し、自由に選べる食事・睡眠の時間を通して、室内の家具配置や遊具選定にも配慮した結果、設定した重点目標が100%達成されている。個々のリズムに合った保育計画が、子どもの健康状態や情緒の安定につながったことは評価できる。
達成の背景には、職員間の丁寧な会話と環境構成への柔軟な対応がある。ただ一方で、全体としての保育リズムが多様化する中、他年齢との交流時間や集団活動とのバランス調整が今後の課題として浮かび上がっている。また、長期的な発育面の影響を継続的に評価する仕組みづくりも求められる。
こうした検証を踏まえ、異年齢保育を通じて子どもの自然な関わりをさらに促進しつつ、多世代とも言える日常の中で互いに学び合う機会を増やし、子どもたちの自主性や協調性を育むと同時に、職員同士の連携強化にもつなげていくことが期待される。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>利用者の特性と情報入手方法を踏まえた多角的な情報提供に取り組んでいる 園は、利用を希望する保護者や将来利用者の特性や情報入手ルート丁寧に分析し、下記に沿って工夫を重ねることで、事前情報の充実を図っている。区や法人のホームページ、園パンフレット、重要事項説明書、Instagram、ポスターを併用し、保育内容や園の様子が視覚的に把握できるように配慮している。これにより、オンライン・オフライン双方のチャネルから多様な利用希望者へ提供している。</p> <p>多言語対応と地域連携を通じて利用希望者の理解促進と情報アクセスの拡充を図っている 外国籍の方や日本語に不慣れな方への配慮として、国際都市おおた協会の通訳派遣システムや手話、ポケットクを活用し、重要事項説明書も多言語で用意するなど、情報の「可視化」と「可聴化」を図っている。個別の面談時間を設ける姿勢は、利用希望者の理解を深めるうえで効果をだしている。病院の待合室やスーパーへのパンフレット設置、園外掲示板への写真・ポスター掲示といった、地域の関係機関や公共空間を活用したQRコード付き資料の配布により、利用希望者が自然な流れで情報に触れられるようにしている。</p> <p>利用希望者のニーズに応じた見学と体験を通じて園の理念と特色を具体的に伝えている 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合は、複数の日程から選択可能な園見学や「育児応援券」を活用した保育体験、離乳食・おやつ試食会、水遊びや園庭開放、行事参加など、多彩なプログラムを用意。各保育室の環境説明や子どもの遊びの様子を直接見学者に紹介することで、園の理念や特色を具体的に伝えている。上述により、当保育所は利用希望者の立場を最優先に捉え、媒体選定から内容表現、個別対応まで一貫して「分かりやすさ」と「アクセスしやすさ」を徹底している。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園前にはオリエンテーションで基本的ルールや重要事項を説明している</p> <p>入園決定者には、事前に必要書類を取りに来ていただき、面談の日程を個別に調節し決めている。面談では家庭で記入された児童調査票や調査票など確認しを園長・看護師・栄養士・保育士が保育時間・生育歴、健康状態、食事状況、アレルギー、家庭での生育状況などの個別情報を聞き取り、保護者の意向や質問にも丁寧に答え記録している。入園前の新入園児オリエンテーションではパワーポイントを使用して重要事項説明書や基本的ルールを項目ごとに説明し、重要事項説明書及び個人情報の利用目的に関する同意書に同意を得ている。</p> <p>保育開始直後の子どもの不安が軽減されるように配慮した保育が行われている</p> <p>新入園児面談で得た個別情報は面談記録一覧にまとめ、職員会議で確認・共有している。入園初日の子どもや保護者の不安やストレスを軽減するため、個々の発達や保育経験に配慮し、保育時間を少しずつ延ばしていく慣れ保育を実施している。就労の復帰時期や子どもの様子を考慮しながら、初日は1～2時間の保育から始め、その後は午前中まで、食事、昼寝までと段階的に園生活に慣れていけるよう支援している。送迎時の対話や連絡帳を通じて日中の様子を丁寧に伝え、家庭と連携しながら新しい環境への適応を支えている。</p> <p>サービス終了時には新しい生活に向け継続した支援を行っている</p> <p>保護者の不安を軽減するため、サービス終了時には必要な情報を提供している。区立園への転園では、保護者の同意がある場合に限って、調査票や発達記録などの必要事項を引き継いでいる。小学校との交流では、学校体験や行事への参加を通じて就学への意識を育てている。就学時には、子どもの育ちを記載した保育所児童保育要録を作成し、小学校へ提出している。保幼少連絡協議会では、個々の子どもの様子を伝え、情報交換を行いながら要録の引き継ぎを進めている。支援が必要な児には、保護者の同意のもと就学支援シートを作成し引き継ぎを行っている。</p>		

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
<p>全体的な計画に基づいて指導計画を作成し、日々の保育を展開している</p> <p>保育所保育指針と「心を育てる太田の保育」に基づき、園の全体的な計画は養護と教育の五領域を踏まえて作成されている。年齢別の年間指導計画をもとに月案・週案・日案を立案し、日々の保育を展開している。計画は子どもの姿からねらいを定め、振り返りを行い次への保育に反映している。年度初めの保護者会で年間指導計画の内容を説明し、個別支援計画及び成果表は期ごとに保護者と面談して内容を共有している。0～2歳児の月間個別指導計画は子どもの姿を保護者と共有し、内容を保護者連絡記録欄に記載している。</p> <p>子どもの関する必要な情報を統一した書式に確実に記録している。</p> <p>子ども一人一人の情報は、児童票や個人記録(0～2歳)、保育日誌、個別指導計画を担当が記録している。保育日誌には、ねらいや配慮、子どもの様子を具体的に記録し振り返っている。月案や個別指導計画は月ごとに、年間指導計画は期ごとに振り返り記録し次への保育に反映している。子どもの姿から発達が見られた場合は、発達記録に記載している。個々の発達年齢に応じ「発達の主なあらわれ」をチェックし、「保育上参考となる事項」の欄に子どもの状況を記録している。書類は鍵付き書庫に保管し職員が閲覧・活用できるようになっている。</p> <p>子ども一人一人を理解するために様々な会議を実施し子どもの情報を共有している</p> <p>指導計画や児童票、個人情報、クラスノートや昼礼、職員会議で共有・報告している。遅早表で日々の連絡事項を共有し、全体周知が必要な内容は昼礼や職員会議で伝えている。子ども一人一人の理解を深めるため、クラス会議で日々の振り返りや子どもの様子を共有し、看護師や栄養士と共に連携して確認し、特性や発達段階の理解を深めている。また、職員会議や「乳・幼児会議」で事例を持ち寄り話し合ったり、心理士の巡回指導を受けた担当職員が子どもの姿を話し合い、その内容を職員会議等で共有するなど子どもへの理解を一層深めている。</p>			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報の取り扱いについて保護者に説明し同意を得ている 子どもの個人情報は法令及び区の条例に基づき適切に管理している。入園前のオリエンテーションで区立保育園のプライバシーポリシーや個人情報利用目的を説明し、同意書に署名を得ている。プールには遮光ネットを設置し外部から見えないように配慮し、着替えは裸にならないよう手順を習慣づけている。おむつ替えはパーテーション内で行い、3歳児以上の身体測定は男女別で肌着を着用したまま実施している。トイレには男女別の便座や個室を設け、羞恥心に配慮し安心できる環境を整えている。</p> <p>子どもの人権を尊重した保育に努めている 子どもの個性を尊重し、あるがままの姿を受け入れて見守る保育を行っている。子どもの気持ちに寄り添い、思いを受け止めることで人権を大切に保育に努めている。年に1回、全体職員会で法人の業務マニュアルを確認し、倫理綱領や職員の心得を共有することで、子どもを尊重する意識を高めている。「心を育てる大田の保育」の自己評価を活用した園内研修や、年1回の人権研修を通じて学びを深め、研修内容は全職員に共有している。不適切保育防止に向けては、事例の共有や人権擁護チェックシートを用いた研修を実施している。</p> <p>虐待防止マニュアルを基本として虐待の早期発見、防止に努めている 毎年の業務マニュアル研修では、虐待に関する内容を職員全員で読み合わせ、理解と確認を行っている。外部研修にも積極的に参加し、報告を通じて職員間で情報を共有している。虐待の早期発見と防止のため、送迎時の保護者との会話や子どもの様子に注意を払い、気になる変化があった場合は看護師、主任、園長に報告し、確認後、園長が関係機関へ連絡している。継続的な観察と記録も行い、虐待の疑いがある場合は速やかに園長へ報告し、保育サービス課や子ども家庭支援センター、児童相談所など関係機関と連携して対応している。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>当園における多様な手引書の整備と継続的な運用見直しを通じて保育の質を向上している</p> <p>当園では業務マニュアル、保健・安全・感染防止・虐待防止・散歩など多岐にわたる手引書を整備し、保育所が提供するサービスを構成するあらゆる要素について基本事項と手順を文書化している。また、職員会議や乳幼児会議、マニュアル研修、昼礼ノートなどを活用し、日常的に手引書の内容が実施状況と照合される仕組みが機能している。運用中の誤りや現場の変化が生じた際には、見直しを行い、変更後のマニュアルを全職員に周知することで、改善策が共有されている。さらに、各マニュアルは書庫や個人ファイルに整理され、参照できるようにされている</p> <p>サービス提供の基本事項と手順の見直しにおいて意見を反映し改善に取り組んでいる</p> <p>当園では、サービス提供の基本事項や手順について、変更の時期や見直し基準を明確に定めている。特に「重要事項説明書」については、保育内容の変化や行政指導に応じて年度末に必ず見直し・改訂を行う仕組みが構築されており、変更の必要性を組織として考察し、その頻度と基準を文書化している。また、見直しにあたっては保護者や職員の意見、さらには子どもの様子を反映する姿勢が徹底されている。保護者参加の行事後には感想を収集し、毎年の保護者アンケートや職員アンケート、3年ごとの第三者評価の結果をもとに改善策を検討している。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの個々の全体的な姿を捉え主体的に遊べる環境づくりを行っている</p> <p>児童調査票や発達記録、保育日誌、個別の指導計画の振り返りなどを活用して子どもの全体的な姿を把握し、個々に応じた保育を展開している。玩具は発達段階や興味に応じて、ままごとやブロック、絵本、積み木など種類別に整理され、目の高さの棚に配置し、コーナーが作られている。子どもが主体的に選んで遊べるよう環境が工夫されている。子どもの声を拾い上げ興味のあるものはさらに深められるようにし、5歳児の海をテーマにした子ども主体の活動では、図鑑や素材を用意し、探求する楽しさや喜びを味わえるような環境構成を行っている。</p> <p>互いを認め合い尊重する心が育つように援助している</p> <p>「わが子を委ねたい保育」を大切に、子どもの個性や人格を尊重した温かな保育を心がけている。年齢や国籍、文化の違いがあっても、子ども同士が互いを認め合い、尊重し合えるよう配慮している。3～5歳児は日々の散歩や遊び、給食などを異年齢で過ごし、思いやりや主体性を育んでいる。食育の中で世界の料理や地域の汁物料理など、文化の特色などを伝えている。支援が必要な子には巡回指導員の助言を受けながら統合保育、を行い、子ども同士のトラブル時には子どもの気持ちに寄り添いながら一緒に考えることを大切にしている。</p> <p>小学校への円滑な接続ができるように支援している</p> <p>保幼少連携事業の合同研修や地域連携協議会に参加し、小学校教育の円滑な接続に向けて学びを深め相互理解を行っている。小学校との交流ではその年によって内容は異なるが、授業体験やゲームコーナーなどが企画され、学校に行ったり保育園に小学生が来て一緒に遊んでもらったりすることで、学校生活に期待を持てるようにしている。また、交流の際は近隣園と日程を調整し同じ日に参加することで交友関係がとれるように配慮している。3月には保育所児童保育要録や就学支援シートを作成し担任が小学校に届ける際必要な状況を提供している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時には子どもの様子を保護者と確認している</p> <p>登園前に保育連絡アプリに家庭での生活状況(睡眠時間、食事内容、健康状態、連絡事項を入力してもらい受け入れ時にアプリの情報を踏まえて視診を行い保護者と確認している。保護者から得られた情報などは各クラスの遅早表に記入し職員間で共有している。緊急性の高いものは朝礼、昼礼でも知らせ全職員で把握している。降園時には、保護者に一日の様子を担当及び担当職員が遅早表を活用し口頭で伝えている。また0～2歳児は電子連絡帳で知らせ、3～5歳児は一斉にクラス全体の子ども様子を配信している。</p> <p>発達段階に応じて基本的な生活習慣が身につくように援助している</p> <p>法人の業務マニュアルには、食事・睡眠・衛生・排泄・着脱など基本的な生活習慣に関する考えや援助が示されている。年間及び月間の指導計画には、子どもの年齢発達に応じたねらいや配慮が盛り込まれ、計画が立てられている。担任とクラス担当の栄養士は一人一人に合わせて離乳食の段階を調整したり、食具の使い方や食事マナーを丁寧に伝えている。パンツへの移行期や着脱では子どものペースで進められるように成功体験を大切に家庭と連携して進めている。また、イラストの掲示、見本を示しながら子どもが自然に生活習慣が身につくようにしている。</p> <p>休息(午睡)は子どもの状況に合わせて取れるように配慮している</p> <p>年齢や個人差、家庭での状況に合わせて昼寝をとるようにしている。朝の受け入れ時の保護者との会話や連絡帳で得た家庭での子どもの状況を把握し発達年齢に応じて入眠時間や睡眠時間を調整している。必要に応じて午前寝や休息ができるようにしている。午睡時は必ずプレチェックを行い、うつぶせ寝にしないよう乳幼児突然死候群(SIDS)の予防に努めている。5歳児(年長児)は就学に向け1月頃から活動時間を延ばし、徐々に午睡を無くすようにしている。午睡がなくなるための配慮として横になれるスペースを用意している。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが主体の遊びや活動が展開できるように環境を整えている</p> <p>子どもが「やってみたい」と思える玩具や遊びを発達や興味・関心に応じて用意している。各クラスではブロックや積み木、手先を使う玩具、パズル、絵本、ままごと、人形、制作素材などを種類ごとに棚に整理し、遊びたいものがすぐ手に取れるよう工夫したコーナーを設けている。0～2歳児には多様な感触を楽しめる玩具や素材のコーナーや、マットや巧技台を使った運動遊びの場を整えている。子どもが自ら遊びを選び主体的に関われる環境を保障している。遊び込む中で満足感や達成感を得て意欲的に人と関わり、集団遊びへとながっていくと考えている</p> <p>さまざまな表現活動を楽しみ豊かな感性を育てている</p> <p>「遊びはいちばんの学び」「園が体験の窓」「叱る必要のない保育」「根っこを育てる保育」を特色に、園庭や室内での遊び、リズム・造形・運動・劇など多様な表現遊びを日常的に行い、子どもが主体的に遊べる環境を構成している。特に3～5歳児には体育講師による平均台や鉄棒、ボール、ゲームなどの体あそびを毎週行い、月1回は表現講師と絵具や泥、木、廃材など多様な素材で自由に創作や感触遊びを楽しみ、作品には固定観念を与えず、子どものそれぞれの発想を生かしてとことん追求する体験を通して感性と意欲を育てている。</p> <p>散歩や園庭遊びを通して自然に触れ体を動かす楽しさや社会性を養っている</p> <p>園庭には桜やイチヨウ、藤棚、アジサイ、びわ、梅などの樹木があり、季節の草花や夏野菜、稲の栽培を通して自然に触れながら遊べる環境が整っている。草むらでの虫探し、秋の落ち葉、冬の霜柱や氷作りなど季節の移り変わりを感じ取れるように働きかけている。広い園庭では土、泥、水などに触れ、タイヤなど可動遊具を使ってのびのびと体を動かして自由に遊びが楽しめるようにしている。近隣散歩では電車をみたり、公園で遊ぶ中で、公園での遊び方や交通ルール、順番を守る経験を重ね、社会生活のきまりの大切さを学ぶ機会になっている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日常保育の延長として子どもの発達や興味に合わせた行事を実施している</p> <p>行事は日々生活や遊びの延長と考え、季節に合わせた行事(子どもの日、七夕、節分、ひなまつり等)や子どもの発達や様子、興味に合わせ、やりたいことや挑戦できる内容を計画している。3～5歳児のうんどうあそび会では日々の保育での体あそびの様子やチャレンジする姿などを保護者に見てもらおうことを目的としている。カモメ会議では子ども主体となっているいろいろなことを話し合い、遊びや行事が進められている。好きな忍者などを題材にして、踊りや競技に楽しみながら主体的に取り組めるよう工夫している。</p> <p>皆で協力し達成感を味わえる喜びを感じられるような行事を実施している</p> <p>うんどうあそびの会やお店やさんごっこ、後期保護者会(発表会)など、3～5歳児を中心に子どもの興味関心に沿った活動を、子どもと共に考え、話し合いながらアイデアを出し合い、協力して一つのものを作り上げている。子どもの「やってみよう」という思いを受け止め、実現することで、友だちと共に達成感を味わい、喜びを感じられるようにしている。行事に向けた取り組みの内容や様子は、日々の写真配信やドキュメンテーションを通して伝え、子どもたちの成長や主体的な活動の様子も発信している。</p> <p>年間行事予定表やお便りを配信し保護者の理解を得られるようにしている</p> <p>年度当初の保護者会で行事についての説明を行い、年間行事予定や園だよりを配布して丁寧に伝えている。保護者には見通しを持って参加に協力してもらえるよう働きかけている。行事は日常生活の延長として、日々の生活を広げる体験として取り入れている。季節を感じる活動や自然・社会に触れる体験を計画し子ども主体の内容で企画することで、子どものありのままの姿や園での様子を保護者に見てもらおう、理解と協力が得られるように努めている。行事後はアンケートの意見を参考に職員間で話し合い、次回の計画に反映している。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心してくつろげる環境づくりをしている</p> <p>午後のおやつの後には、年齢に関係なく各クラスの子どもが園庭で体を動かして遊べる時間を設け、その後は室内遊びへと移行することで、活動に変化を持たせている。保育時間が長い子どもが落ち着いて過ごせるよう、各クラスではクッションビーズやマットを敷き、いつでも横になれるコーナーを設けている。子どもが自分の好きな遊びにじっくり取り組めるよう、静かに一人で絵本を読める環境や、衝立を活用した落ち着いて遊べる空間を整えている。延長保育の時間帯には、保育士が子ども一人一人の気持ちに寄り添い、要求に応じてゆったり関わっている</p> <p>保育形態の変化があっても子どもが落ち着いて過ごせるようにしている</p> <p>夕保育(17時30分～18時15分)は、0・1歳児を1歳児クラスに集め、個々に寄り添いながら、好きな遊びをゆったり楽しめるようにしている。3～5歳児は保育室間の扉を開放し、自由に行き来できるようにし、子ども自身が好きな場所で遊びを決めている。選べる空間を用意することで、長時間保育の子どもたちが落ち着いて過ごせるようにしている。異年齢の関わりも楽しめるようにしている。延長保育(18時15分～20時15分)は、2歳児保育室で合同保育を行い、保育士が子どもの様子を丁寧に把握し、安心して遊べるよう環境を整えている</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>空腹のリズムを作り子どもたちが食べたいタイミングで食事が取れるように配慮している</p> <p>区共通の献立を用い、季節や旬の食材を取り入れた給食を提供している。毎月、お楽しみ献立や行事食、郷土料理を実施し、食への関心を育てている。午前中に十分に遊ぶことで空腹感を促し、一斉でなく、子どもが食べたい自分のタイミングで食事ができるように配慮している。0～2歳児は専用の食事スペースで落ち着いて食べられる環境を整え、3～5歳児はホールをランチルームとして活用し、異年齢で関わりながら楽しく食事ができるようにしている。年長児の姿を見て年少児が意欲的に食べたり、マナーを教わったりする中で、思いやりの心が育まれている</p> <p>食物アレルギーや文化の違いに配慮し除去食にて提供を行っている</p> <p>食物アレルギーのある子どもには、大田区のアレルギー対応ガイドラインに沿って給食を提供している。保護者・園長・栄養士・担任が面接を行い、医師作成の生活管理指導表に基づいて除去食を提供している。誤食を防ぐため、除去食や宗教食の提供時には確認簿を使用し、専用の食器とトレイに名前・顔写真・除去食材を記載した食札を添えて準備している。調理カウンターに2段目に配置し、調理師と担任、さらに担任同士によるダブルチェックを行ったうえで、別のテーブルで職員が付き添いながら提供し、誤食の防止に努めている。</p> <p>食育活動を通して子どもが食への関心が深められるようにしている</p> <p>年間食育計画に基づき、0～5歳児の年齢や発達に応じた食育活動を展開している。栄養士と担任が連携して喫食状況を把握し、野菜の栽培し収穫、調理・試食などの体験を通して食への関心を高めている。野菜の皮むきやおにぎり・クッキー・ピザづくりなどの調理保育も行っている。その日の食材展示やライブキッチン、箸の持ち方指導、三色食品群や果物のイラスト掲示など、日常の中で食育を取り入れている。保護者会では食育目標やクラスの食事のポイントを伝え、給食だけでなく家庭で楽しい食事の時間になるような話題を配信している。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>看護師による保健指導のもと子どもが健康や安全に関心を持てるように支援している</p> <p>子どもが自らの健康や安全に関心を持ち、心身の健やかな成長を支えられるよう、安全計画・保健計画を策定し、看護師を中心に健康教育・保健指導を実施している。手洗いやうがいの方法、熱中症予防、プール・水遊びの時の事故防止など、怪我につながる行動への注意喚起を行い、日々の保育では戸外遊びやからだ(運動)遊び、体感を鍛えられるわらべ歌遊びなどを通して危機回避能力の育成に努めている。さらに、交通安全教室や毎月の避難訓練を実施し、子どもが安全で健康的に生活できるように支援している。</p> <p>子どもの健康を把握し、医師や専門機関と連携して個別対応している</p> <p>子どもの健康管理は、嘱託医による年2回の健康診断(0歳児は月1回)や歯科健診を実施し、健康カードに記録して保護者に周知している。毎月の身体計測は保育アプリを活用し、保護者と情報を共有している。熱性けいれんやアレルギーなど個別対応が必要な疾患の情報は職員会議で共有し、医師の指示書やアレルギー生活管理表を用いて状況を把握している。必要に応じて園長、栄養士、看護師を含め保護者面談を行い、個別の配慮点を確認している。与薬は医師の指示書と保護者の同意に基づき対応している。</p> <p>子どもの健康を把握し、医師や専門機関と連携して個別対応している</p> <p>子どもの健康管理は、嘱託医による年2回の健康診断(0歳児は月1回)や歯科健診を実施し、健康カードに記録して保護者に周知している。毎月の身体計測は保育アプリを活用し、保護者と情報を共有している。熱性けいれんやアレルギーなど個別対応が必要な疾患の情報は職員会議で共有し、医師の指示書やアレルギー生活管理表を用いて状況を把握している。必要に応じて園長、栄養士、看護師を含め保護者面談を行い、個別の配慮点を確認している。与薬は医師の指示書と保護者の同意に基づき対応している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者の個々の事情に配慮した支援を行っている 日頃から子どもの様子を丁寧に伝え合い、保護者との信頼関係を築きながら、個々の事情に寄り添った支援に努めている。相談しやすい雰囲気づくりに努め、個人面談も随時実施している。保育時間の変更や必要事項は児童調査表に記録し、職員間で情報を共有している。急な残業や予定外のお迎えにも柔軟に対応し、保護者の不安や悩みを把握した際には、心理巡回指導や療育機関など専門機関との連携を図っている。相談会の案内もポスターの掲示やチラシで周知している。</p> <p>保護者会で保護者同士が交流できる機会を設けている 保護者同士の交流の機会として、保護者会や保育参加などを通じて意見交換の場を設けている。年2回の保護者会では、園の目標や子どもの成長について共有した後、懇談会を開き、5～6名のグループで育児の悩みや発達の見通しなどを語り合う機会としている。後期には親子で楽しむ「一緒に遊ぼう会」を実施し、保護者同士の交流を深めている。行事や保育参加、個人面談を通して一人一人の子どもの成長を共有し保護者との信頼関係構築に努めている。</p> <p>保育活動への参加を通して保護者の養育力が育まれている 保護者と子どもの発達や育児について共通認識を得る取り組みとして、保護者会では子どもの様子や発達の見通しを伝え、懇談会で意見交換を行っている。また、親子で遊べる機会や絵本、わらべ歌の講演会なども実施している。また、園だより・給食だより・健やか子育てだよりなどを配信し情報を共有している。保育参観・参加・個人面談・行事などを通して、子どもの成長や保育士の関わりを見たり体験したりすることで、保護者の養育力が育まれている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域資源を活用し様々な体験や交流の機会を設けている 本園は公団住宅の1階に位置し、広い園庭と裏庭を備えている。駅に近く、商業施設や役所、公園、消防署、警察署、図書館、保育園、小学校、中学校、隣接する高校などが周辺にあり、目的に応じて散歩に出かけ、戸外活動を楽しんでいる。5歳児は毎月図書館を訪れ、本の貸し借りを体験しているほか、消防署の起震車体験や警察署による交通安全教室、小学校との交流会、近隣園との交流も行っている。また、中学校の職場体験授業や高校の職場体験ボランティアの受け入れも実施しており、地域資源を活用した多様な体験や交流の機会を設けている。</p> <p>地域の人々と交流できる機会を設けている 地域の子育てを対象に、見学会や園庭開放を実施している。離乳食やおやつを試食相談会、行事の案内、子育て相談なども行っている。区から配布される育児応援券を受け入れ、保育園体験や給食の提供を通じて、同年齢の子どもと関わり遊ぶ機会を設けている。また、中学生の職場体験や保育実習生、高校生のボランティアを受け入れ、子どもが年上の人と関わりながら、優しく接してもらい経験を積んでいる。外部講師による表現活動の学びや、地域の保育園の子どもとの交流、さらに、小学生との交流など、職員以外の多様な人々と関わる機会を設けている</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	子どもの健康を維持するための危機管理に配慮した保育が実践されている	
内容①	園ではBCPや安全計画、避難訓練計画、保健計画を策定し計画的に実施している。事故・感染症防止マニュアルを確認し、事故や感染症、侵入、SIDS等への対策を講じている。午睡時は専属見守り職員がピブスとタイマーを着用し、0歳児は5分、1・2歳児は10分、3歳以上は30分ごとに呼吸や顔色、体位を確認しうつぶせ寝を防止している。保育室は照明を点け子どもの変化に気づける環境を整えている。園庭遊びやプール遊びの時もピブス着用の専属見守り職員を配置し、子どもが安全に遊べるように高い危機意識をもって子どもの命を守っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢児が好きな遊びを選び自由に保育室を歩き来する中で、自然な関わりと学び合いが育まれる環境を構築している
	内容	朝夕の合同保育以外の時間にも、3・4・5歳の異年齢児が自由に保育室を歩き来できる環境を整えている。子どもは好きな場所で遊びたい玩具を選び、主体的に遊んでいる。保育室全体をコーナーにして制作遊びや積み木遊び、机上遊びなどに環境を工夫し、異年齢と一緒に遊べるようにしている。ランチルームでは一緒に食事をし、5歳児が準備や年少児の世話をし、年少児はその姿を手本にしている。異年齢交流の中で遊びやルール、人との接し方を学び合い、年上の子が年下の子に優しく教えたり手伝ったりする姿から、思いやりや敬う心が育まれている。
2	タイトル	表現遊びの体験を通して生活が豊かになり、子どもは意欲的に活動しながら感性や創造性を育てている
	内容	園庭や室内での遊び、リズム・造形・運動など多様な表現遊びが行われている。園では表現遊びの体験が深まるように専門の講師を招き(美術・体操・わらべ歌)などの指導を受けている。3～5歳児は毎週体操講師による平均台や鉄棒、ゲームなどの体あそびを行い、さらに月1回の美術講師による表現遊びでは、絵具や泥、木、廃材など多様な素材で自由に創作し感触遊びを楽しみ、作品には固定観念を与えず子どもの発想を生かし、とことん追求し味わう体験をしている。こうした表現活動は子どもの生活を豊かにし、意欲や感性、創造力を育てている。
3	タイトル	0～2歳児は個人別指導計画を立案し保護者と子どもの姿や目標を共有している
	内容	保育計画は全体の計画を基に年間指導計画を立案し、月案・週案へと落とし込み日々の保育を展開している。0～2歳児は毎月個人別指導計画を作成し、養護・健康とあそびの各項目から月の目標を設定し、援助や配慮事項を明記して発達に応じた保育を行っている。月末には子どもの姿を振り返り次月の計画に反映する。保護者には振り返り後の子どもの様子を伝え、家庭での様子も聞き取り、共有内容を連絡欄に記録している。保護者と子どもの姿や目標を共有し成長を確認しながら信頼関係を深めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	理念が浸透した強固な組織文化は、外部の視点を取り入れることでよりしなやかな発展を遂げるでしょう
	内容	組織の根幹である理念が、キャリアパスと連動した人材育成や職員心得を巡る対話を通じ、職員一人一人の行動レベルまで深く浸透している。さらに、倫理規範の学習や日々の気づきを組織の力に転換する文化が醸成されており、理念が形骸化することなく、質の高い保育実践を支える強固な組織文化として機能していることが伺える。今後は、組織の軸を堅持しつつも、意識的に外部の専門家を招聘したり、多様な背景を持つ人材が活躍できる環境を整備したりすることで、文化の硬直化を防ぎ、よりしなやかで持続可能な組織へと発展することが期待される。
2	タイトル	高度にシステム化された各業務を有機的に連携させ、組織全体の戦略へと昇華させることが望まれる
	内容	BCPを核としたリスクマネジメント、多岐にわたる手引書の整備と運用、多角的な情報提供など、個々の業務が高度にシステム化されている。特に、リスクの優先順位付けに基づく具体的な対策や、マニュアルの継続的な見直しプロセス、ICTを活用した情報管理など、計画の実効性と透明性を担保する仕組みは評価できる。一方で、地域ニーズの分析結果が次年度の事業計画へ体系的に反映される仕組みがまだ発展途上である。今後は、各部門で蓄積された実践データや地域情報を一元的に集約し、園の長期的なビジョンや事業計画に位置付けてほしい。
3	タイトル	優れた実践力を地域社会全体の発展へと繋げ、子育て支援のハブとしての役割を担うことが期待される
	内容	安全計画や子ども主体の保育といった重点課題を着実に実行し、目標達成率を客観的に示すなど、理念を具体的な行動に移し成果を上げる卓越した実践力は高い。現状に満足せず、不審者対応訓練の強化や異年齢保育の拡充といった次なる課題を明確にし、PDCAサイクルを回し続ける姿勢が組織の成長を推進している。しかし、現在の課題認識が園内で完結する個別テーマに留まっている印象も受ける。これまでの豊富な知見やリソースを、どのように地域社会全体へと還元し、貢献していくかという、より俯瞰的な視点での目標設定が次の段階として望まれる。